

スキルミックスと医療の質

尾藤 誠司 松本 純夫 山西 文子

第62回国立病院総合医学会
(平成20年11月21日 於東京)

IRYO Vol. 63 No. 8 (490-493) 2009

要旨

患者にとって最大の利益となる医療サービスを提供する際には、病院に勤務する異なる専門職が一つのチームとなって最大の効率を生み出すことが必要である。さらにその考え方を推し進めると、担当医、担当看護師という考え方から、その時点その状況時に患者にとって最大の利益を生み出せるものが職種や担当にかかわらず患者をケアすることができれば、病院医療サービスはよりよいものとなる。その考え方を技術の面からとらえたものがスキルミックスである。本稿ではスキルミックスが生み出す医療の質向上への実証的なエビデンスや、東京医療センターにおける調査結果を紹介するとともに、今後国立病院機構の病院がよりよい医療を提供する際の方向性についてまとめた。

キーワード スキルミックス、業務分担、医療の質、高度看護実践

はじめに

病院には多数の医療専門職が従事し、それぞれの専門性を生かしながら患者をはじめとした病院利用者の利益を最大限にするための医療サービスを行っている。ただ、医療サービスという特性上、専門職間の仕事の内容が重複する度合いは、他のサービス業に比較して小さいかもしれない。たとえば、レストランにおいては、通常のサービススタッフの場合によってはワインの選択に対してある程度対応できるような知識を身につける必要があるであろうし、ホテルのサービスなどはより専門性にとらわれないスタッフの対応が必要になることが多いであろう。

医療サービスにおいては、医師は診断と治療、看護師はベッドサイドのケア、薬剤師は調剤と服薬に関するコンサルティング、理学療法士はリハビリテ

ーションにおける専門的な処方、医療社会福祉士 (medical social worker : MSW) は医療と社会との接点に関する相談、というように、専門職によってかなり明確に仕事の分担を分けていることが常である。確かに、たとえば法制上医師でなければ行えない仕事というものが存在するため、医師の業務に多職種が踏み込めないという現実的な問題はある。しかしながら、患者を中心に考えた場合、医療サービスの質をより高めるためには、今までとは違った分業、もしくは業務内容の統合が必要になってきているのが現在の情勢である。地域においては、とくに病院勤務医が不足し、マンパワーの不足のためにそもそも患者を門前で引き受けることすら難しい状況になっている施設が少なくない。また、ここ10年での大きな変化として、患者サービスにおいて文書の作成や病状説明のための面談が占める割合が飛躍

国立病院機構東京医療センター 総合内科 臨床研究センター 臨床疫学研究室
別刷請求先：尾藤誠司 国立病院機構東京医療センター 総合内科 〒152-8902 東京都目黒区東が丘2-5-1
(平成21年6月18日受付、平成21年7月10日受理)

Skill Mix and Quality of Care

Seiji Bito, NHO Tokyo Medical Center

Key Words : skill mix, task substitution, quality of health care, advanced nursing